

神戸大学校友会ニュースレター

いつも校友会の活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

— インフォメーション —

【1】トピックス

- (1) 神戸大学校友会富山県支部設立総会報告
- (2) 全学新入生歓迎イベントのお知らせ

【2】お知らせ

- (1) 外務省と JICA、吉本興業の ODA70 周年イベントに、本学生がパネラーとして参加
- (2) 法学部の学生 5 名が、英国ブルネル大学で研究発表を行うプロジェクトを実施
- (3) 文化庁 令和 6 年度「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業」において、近畿ブロック拠点校として採択
- (4) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船「海神丸」が能登半島沖調査航海から帰港
- (5) 令和 5 年度学生表彰及び感謝状贈呈式を開催
- (6) 2023 年度海外留学フェア(全 25 回)を開催
- (7) 木村建次郎教授グループの研究開発が、文部科学省が発行する令和 6 年度版学習資料 一家に 1 枚『世界とつながる“数理”』に掲載
- (8) 日本医療研究開発機構 (AMED) 令和 5 年度「革新的医療技術研究開発推進事業 (産学官共同型)」に採択
- (9) 若手起業家・研究者支援プログラム「Soil100」に、神戸大学起業部のメンバー 3 名採択

【3】研究ニュース

- (1) 神経シナプス後部のタンパク質の集積を司る因子を発見
- (2) 光アップコンバージョンには中間体の回転が重要だった！
高効率な光エネルギー変換デバイスの実現へ
- (3) 深層学習で脳機能画像からマウスの行動を識別
- (4) 代謝における細胞分化の役割に迫る

- (5) 樹齢 1000 年を超えるヤクスギの樹上に地表と異なる生物相を発見
- (6) 微生物が作り出すプラスチックでポリ乳酸の生分解性と伸びを改善
- (7) 発達期のシナプスタンパク質組成の変化を解明
- (8) 子どもの自己呈示のことばに対する解釈はいつ発達する？
- (9) 徹底した省部品化と高速性・高昇圧比・低ノイズ性を備えた 高効率直流電源を開発

【4】受賞・受章

- (1) 第 10 回 Japan Business Design & Action Award 2023-2024 で FairMed が Japan ビジネスアイデアプラングランプリを受賞
- (2) 令和 5 年度起業家甲子園全国大会で FairMed が最優秀賞の総務大臣賞を受賞
- (3) 大阪産業局の事業支援プログラム「起動」に理学研究科の津田明彦准教授によるスタートアップが採択
- (4) 第 129 回日本解剖学会総会・全国学術集会 において献体学術賞を受賞

【5】フィーチャー

- (1) デジタル技術で世界の物流と地球環境を変えていく
- (2) 阪神・淡路大震災 30 年 研究の蓄積を未来にどう生かすか

【6】イベント等情報

- (1) イベント情報

【1】トピックス

(1) 神戸大学校友会富山県支部設立総会報告

- ・ 日 時：令和6年2月16日（金）
- ・ 場 所：富山市 ごんべい舎
- ・ 出席者：27名

神戸大学校友会富山県支部は、令和5年8月5日に凌霜会支部と同窓会が統合し、新たに発足しました。この度、当支部は令和6年2月16日、富山市内において設立総会を開催しました。

前年の凌霜会富山県支部総会から出席者も増加し、盛会のうちに終了いたしました。

次回は令和6年8月頃の開催を予定しております。富山県に縁のある方のご参加をお待ちしております。

令和6年3月1日 富山県支部事務局 布見（平成19年経営卒）



(2) 全学新入生歓迎イベントのお知らせ

5月5日王子スタジアムにおいて、アメリカンフットボール部主催の対横浜国立大学新入生歓迎交流戦が開催されます。神戸大学入学の全学新入生／留学生を歓迎するとともに大学全体で One Kobe Family の一体感を創りあげたいと思います。

より多くの神戸大学ファミリーのみなさまに応援いただき盛り上がりましょう。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.ku-alumni.kobe-u.ac.jp/news/2024/20240408.html>)

【2】お知らせ

- (1) 外務省と JICA、吉本興業の ODA70 周年イベントに、本学生がパネラーとして参加

政府開発援助（ODA）が始まって今年で 70 年を迎えるにあたり、外務省と JICA、吉本興業などによるキックオフイベントがこのほど、神戸国際会議場（神戸市）で開かれ、神戸大学の国際人間科学部と大学院国際協力研究科の学生 3 名がパネラーとして出演しました。

若い世代に ODA や SDGs の取り組みについて分かりやすく理解してもらうのが目的で、オンライン配信なども含め、約 300 人が参加。本学の学生は、関西学院大学の学生とともに、「SDGs ネイティブ世代から見た ODA」をテーマにしたディスカッションに登壇しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/2024_03_15_01/)

- (2) 法学部の学生 5 名が、英国ブルネル大学で研究発表を行うプロジェクトを実施

神戸大学大学院法学研究科・法学部は、5 名の学部生を選抜し、3 月 5 日と 6 日に、ブルネル大学政治歴史学部で研究論文を発表する教育研究プロジェクトを行いました。法学部では、2015 年から、コロナ禍でのオンライン開催も含め、毎年このプロジェクトを実施しています。

5 名の学生は、日本の世襲議員の行動分析、教育格差を定義する要因、新興国の援助動向、国連 PKO 隊員による性犯罪の発生、選挙へのフェイクニュースの影響など、多岐にわたるトピックについて半年間研究を進めました。発表当日は、英語での報告と質疑応答を堂々で行い、ブルネル大学の教員や学生から貴重なフィードバックを多数いただきました。ブルネル大学の学生の皆さんも、自身のバックラウンドに根差す大変興味深い内容の報告をされました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240319-63459/>)

(3) 文化庁 令和6年度「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業」において、近畿ブロック拠点校として採択

神戸大学は、令和6年度の文化庁「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業」において、近畿ブロック拠点校として採択されました。

本事業は、日本語教師養成・研修を担う高度な専門人材の育成、地域のニーズに応じた養成・研修を行う人材の育成・確保を推進する拠点整備を目的とするもので、全国を6ブロックにわけ、本学を含め、8つの拠点が選定されています（東北大学、筑波大学、東京外国語大学、金沢大学、南山学園、神戸大学、広島大学、福岡女子大学）。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240321-65155/>)

(4) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船「海神丸」が能登半島沖調査航海から帰港

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船「海神丸」は、2月22日から能登半島沖調査航海を実施していましたが、3月17日午前10時5分、無事に深江キャンパス係船池に帰港しました。

本調査航海においては、令和6年能登半島地震に伴う海域地殻変動により生じた海底面の変化及び海底下活断層の変位を明らかにするために、海洋底探査センターと共に探査機器を用いて調査を実施しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240326-65160/>)

(5) 令和5年度学生表彰及び感謝状贈呈式を開催

研究活動や課外活動で成果を上げた学生と指導者らをたたえる「令和5年度学生表彰及び感謝状贈呈式」が3月13日、神戸大学出光佐三記念六甲台講堂で開催されました。

学生表彰ではフィギュアスケートの国際大会で入賞を果たすなど国際的に活躍し、3年連続の受賞となるスケート部の壺井さん（国際人間科学部3年）ら個人受賞28人と漕艇部、女子タッチフットボール部など7団体が受賞し、また神戸大学体育会系公認課外活動団体OBOG会連合会会長の新垣恒則氏を筆頭に2人、2団体が感謝状を贈呈されました。

表彰式では藤澤正人学長が一人一人に表彰状を手渡し、「神戸大学の名誉を大いに高めてくれた。受賞は社会人になっても貴重な財産として残る」などと挨拶しました。

また今年度から協力をいただいた校友会の中村直彦副会長からも暖かい祝辞の言葉をいただきました。

さらに校友会からは、被受賞者に副賞を贈呈しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240327-65167/>)

(6) 2023 年度海外留学フェア(全 25 回)を開催

神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センター海外派遣教育部門では、年間を通じて「海外留学フェア」を定期的に行っています。学生が参加しやすいオンラインでの開催を基本としつつ、一部は対面で実施しています。2023 年度は、計 25 回のフェアを実施しました。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240327-65161/>)

(7) 木村建次郎教授グループの研究開発が、文部科学省が発行する令和 6 年度版学習資料 一家に 1 枚『世界とつながる“数理”』に掲載

神戸大学数理・データサイエンスセンターの木村建次郎教授グループの研究開発が、文部科学省が発行する令和 6 年度版学習資料一家に 1 枚『世界とつながる“数理”』に掲載されました。

一家に 1 枚ポスターシリーズは、文部科学省が科学技術理解増進施策の一環として、多くの方が科学技術に関する興味・関心を高めることを目的に、科学技術週間に合わせて毎年発行しているものです（第 65 回科学技術週間：令和 6 年 4 月 15 日～4 月 21 日）。令和 6 年度版では、『世界とつながる“数理”』と題し、

「数学を道具として使うこと」で世界のものを理解したり答えを出したりする「数理」をテーマに、数理が私たちの生活でどのような形で使われているのかを、様々な事例をもとに紹介されています。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240327-65165/>)

(8) 日本医療研究開発機構 (AMED) 令和 5 年度「革新的医療技術研究開発推進事業 (産学官共同型)」に採択

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野造血幹細胞医療創成学部門宮西正憲特命教授 (研究代表者) は、同大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター黒田良祐センター長 (兼大学院医学研究科外科系講座整形外科学教授)、同大学未来医工学研究開発センター村垣善浩センター長 (兼大学院医学研究科医療創成工学専攻副研究科長・教授)、株式会社イクスフロー、日本精工株式会社、日本ゼオン株式会社らとともに、日本医療研究開発機構 (AMED) の令和 5 年度「革新的医療技術研究開発推進事業 (産学官共同型)」に採択されました。研究開発テーマは「バーサタイル CD34 陽性細胞を用いた超個別化医療の実現」です。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240329-65182/>)

(9) 若手起業家・研究者支援プログラム「Soil100」に、神戸大学起業部のメンバー3名採択

神戸大学起業部の福田純礼 (医学部 4 年)、高橋英眞 (農学部 1 年)、森下日菜子 (経営学部 1 年) の3名が、一般財団法人 Soil が実施する若手起業家および研究者を支援する助成プログラム「Soil100」の2期生として採択されました。

各メンバーは 100 万円の助成金を受け取り、自らのプロジェクトを前進させます。

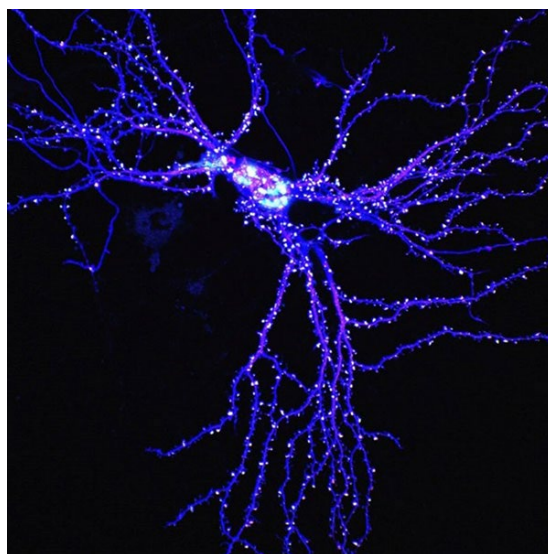
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0327.html>)

【3】研究ニュース

(1) 神経シナプス後部のタンパク質の集積を司る因子を発見

神戸大学大学院医学研究科生理学分野の貝塚剛志特命助教（現英国エディンバラ大学臨床脳科学センター博士研究員）、内匠透教授（理化学研究所生命機能科学研究センター客員主管研究員）、京都大学大学院医学研究科システム神経薬理学分野の林康紀教授らの国際共同研究グループは、プロテオームのデータ分析により、シナプスに局在する主要なタンパク質のひとつとして「FAM81A」を発見しました。詳細な解析の結果、FAM81A は液-液相分離によって細胞内で液滴状の構造を形成し、シナプスの分子を集積させる性質を持っていることがわかりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

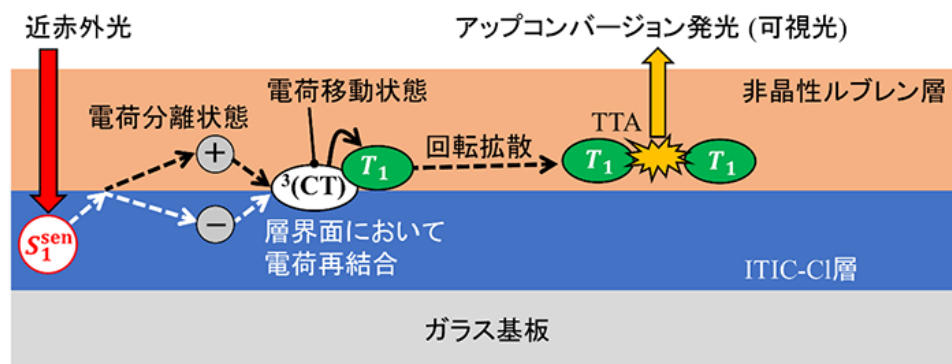
(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240308-21793/>)

(2) 光アップコンバージョンには中間体の回転が重要だった！

高効率な光エネルギー変換デバイスの実現へ

神戸大学分子フォトサイエンス研究センターの岡本翔助手と小堀康博教授、東京工業大学科学技術創成研究院の伊澤誠一郎准教授、自然科学研究機構分子科学研究所の平本昌弘名誉教授らの研究グループは、近赤外光を高効率に可視光へ変換可能な有機薄膜固体内部における電子スピンのミクロな運動を調べ、中間体として生成する三重項励起子が固体内部の回転拡散運動でスピン状態を変化させて短波長の光を高効率に生じる様子を捉えることに世界で初めて成功しました。今後、高効率光エネルギー変換デバイス開発が進展し、世界的なエネルギー問題解決に貢献するとともに、人体に害のない近赤外光を光アップコ

ンバージョンさせ利用する光線力学的ながん治療や診断など幅広い分野への展開が期待されます。



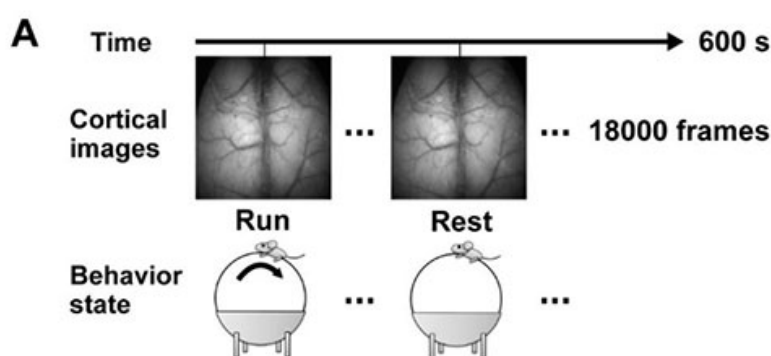
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240314-21796/>)

(3) 深層学習で脳機能画像からマウスの行動を識別

神戸大学医学部医学科の味岡雄大（研究当時）、同大学大学院医学研究科生理学分野の中井信裕特命助教、内匠透教授（理化学研究所生命機能科学研究センター客員主管研究員）らの研究グループは、深層学習モデルを用いて、大脳皮質の広範囲な神経活動を計測した脳機能画像からマウスの歩行や静止といった行動状態を秒単位以下のレベルで高精度に識別することに成功しました。

今後、行動予測のための深層学習モデルを発展させることで、脳機能画像情報を用いたブレインマシンインターフェースの開発につながることを期待されます。



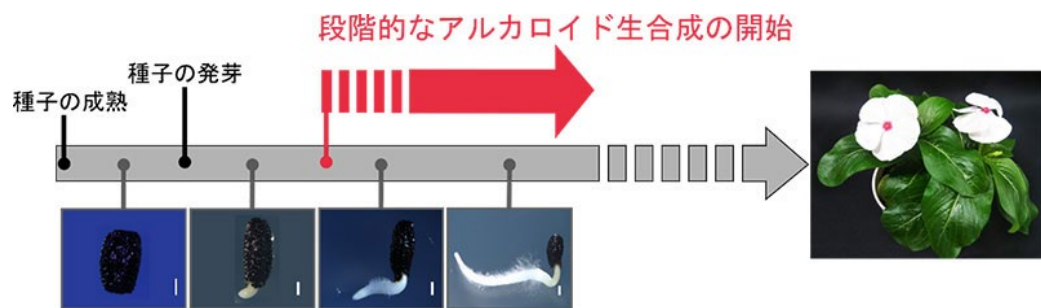
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240321-64622/>)

(4) 代謝における細胞分化の役割に迫る

理化学研究所環境資源科学研究センター代謝システム研究チームの鵜崎真妃基礎科学特別研究員、平井優美チームリーダー（名古屋大学大学院生命農学研究科客員教授）、横浜市立大学理学部理学科の山本浩太郎助教、京都先端科学大学バイオ環境学部バイオサイエンス学科の三村徹郎教授、神戸大学大学院理科学研究科生物学専攻の石崎公庸教授、深城英弘教授、京都大学大学院理科学研究科生物科学専攻の大西美輪博士研究員らの国際共同研究グループは、薬用植物ニチニチソウの種子胚におけるアルカロイド生合成開始過程を明らかにし、アルカロイド代謝において細胞分化が重要な役割を担う可能性を示しました。

本研究成果は、抗がん剤などの薬として重要なニチニチソウアルカロイドの生合成およびその制御機構の理解につながり、植物や植物細胞を用いた化合物生合成技術の開発に貢献すると期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240322-63460/>)

(5) 樹齢 1000 年を超えるヤクスギの樹上に地表と異なる生物相を発見

屋久島には樹齢 1000 年を超えるヤクスギが生育しています。その樹上には、幹の分岐などに葉が堆積し、分解が進んでできた土壌があり、ここに多様な無脊椎動物が生息していることが分かりました。これらの動物の組成は、地表のそれとは大きく異なっており、貴重な生物多様性だといえます。



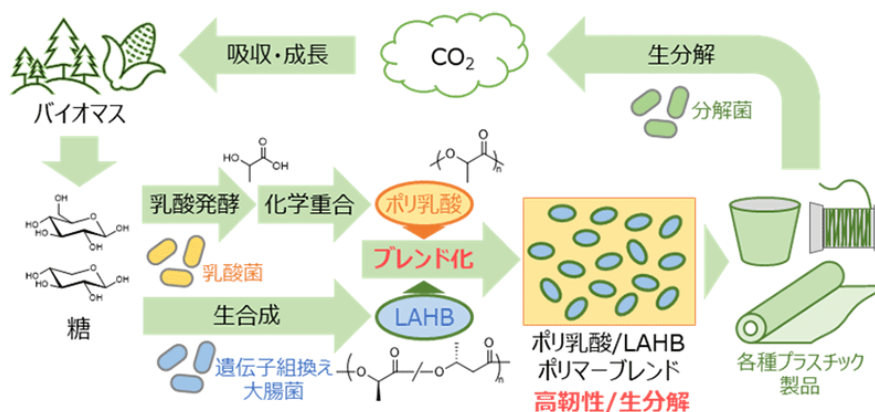
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240322-65131/>)

(6) 微生物が作り出すプラスチックでポリ乳酸の生分解性と伸びを改善

産業技術総合研究所マルチマテリアル研究部門今井祐介研究グループ長、富永雄一主任研究員、触媒化学融合研究センター吉田勝研究センター長、田中真司主任研究員、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科田口精一特命教授、高相昊特命助教は、株式会社カネカと共同で、ポリ乳酸が抱えるもろさと生分解性の課題を、微生物により生合成される乳酸と 3-ヒドロキシブタン酸の共重合体（略称：LAHB）をブレンドすることで克服しました。

ポリ乳酸は、代表的なバイオ資源由来プラスチックですが、力学的にもろい、生分解性が限定的、などの課題があります。今回、LAHB をポリ乳酸にブレンドすることで、ポリ乳酸の伸びの大幅な改善に成功しました。また、LAHB のブレンドによりポリ乳酸の海水中での生分解が促進されることを見いだしました。

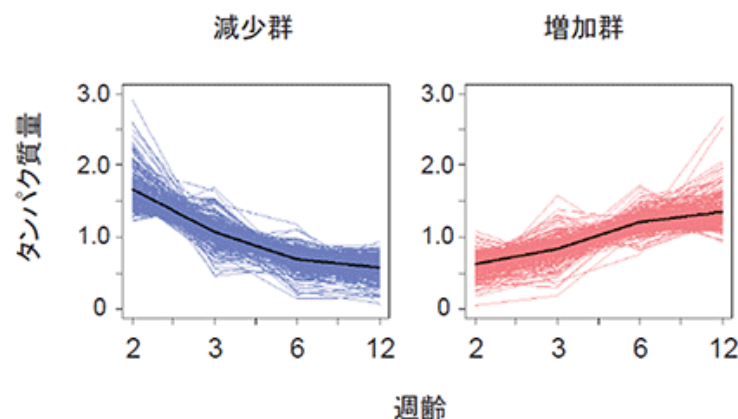


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240325-65159/>)

(7) 発達期のシナプスタンパク質組成の変化を解明

神戸大学大学院医学研究科生理学分野の貝塚剛志特命助教（現 エディンバラ大学臨床脳科学センター博士研究員）、内匠透教授（理化学研究所生命機能科学研究センター客員主管研究員）、理化学研究所環境資源科学研究センター生命分子解析ユニットの鈴木健裕専任技師、堂前直ユニットリーダー、理化学研究所脳神経科学研究センターマーモセット神経構造研究チームの岸憲幸研究員、岡野栄之チームリーダーらの国際共同研究グループは、げっ歯類（マウス）と霊長類（マーモセット）のシナプスタンパク質が、生後数週間から数ヵ月、数年にわたる脳の発達期においてどのように変化するかを初めて解析し、その違いを明らかにした。さらに、自閉スペクトラム症では何が違うのかも明らかにした。本成果は、発達や疾患におけるシナプス成熟の背後にあるメカニズムに迫るものであり、治療法の開発研究に道を開くことが期待される。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240328-65130/>)

(8) 子どもの自己呈示のことばに対する解釈はいつ発達する？

神戸大学大学院人間発達環境学研究科の林創教授らは、サセックス大学の Robin Banerjee 教授との国際共同研究において、自分に対する印象を操作する「自己呈示」のことばを解釈する際の発達による変化を検討しました。その結果、小学校に通う時期の子どもたちが年齢とともに、自己呈示者のふだんの実力に注意を向けて、その人の評価をするようになることが明らかになりました。この知見は、子どもの他者とかかわる力を高めていく指導を行う上で見逃ししやすい点であり、有用な情報となると考えられます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240329-65163/>)

(9) 徹底した省部品化と高速性・高昇圧比・低ノイズ性を備えた 高効率直流電源を開発

神戸大学大学院海事科学研究科/水素・未来エネルギー技術研究センターの三島智和准教授と台湾・国立中興大学・頼慶明教授らの研究グループは、受動電子部品を最小化し、1MHz 以上の高周波領域にて直流電圧を高昇圧する機能を備えた新しい高効率直流電源を開発しました。今後、燃料電池や振動発電（環境発電、エネジーハーベスタ）、医療用電源など高昇圧能力や低ノイズ性が求められる電源装置への応用が期待できます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240329-65177/>)

【4】受賞・受章

- (1) 第10回 Japan Business Design & Action Award 2023-2024 で FairMed が Japan ビジネスアイデアプラングランプリを受賞

一般社団法人ビジネス・アクション・クラブ (BAC) 主催の第10回 Japan Business Design & Action Award 2023-2024 が3月14日に開催されました。

この大会において、神戸大学起業部の FairMed (代表：福田純礼、医学部4年) が、AI を活用した血管内手術ナビゲーションシステムの開発事業で、成長可能性の高いビジネスアイデアが高く評価され、Japan ビジネスアイデアプラングランプリを受賞しました。

また、シロアリ由来の水素生成事業～シロアリ・微生物が日本を救う！～を発表した HIM (代表：高橋英眞、農学部1年) も、社会課題の解決を目指すビジネスモデルとして、SDGs 賞及び GoodShot 賞を受賞しました。

FairMed と HIM は、それぞれ2023年12月に開催された近畿大会で、グランプリ及び準グランプリを獲得し、全国大会への出場権を獲得したチームです。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0319-2.html>)

- (2) 令和5年度起業家甲子園全国大会で FairMed が最優秀賞の総務大臣賞を受賞

総務省と情報通信研究機構 (NICT) が共同で主催した、令和5年度の起業家甲子園全国大会が3月13日開催されました。

この大会では、神戸大学起業部の FairMed (代表：福田純礼、医学部4年) が、AI を活用した血管内手術ナビゲーションシステムの開発事業で、最優秀賞の総務大臣賞を受賞して、全国大会の頂点に輝きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0319-1.html>)

- (3) 大阪産業局の事業支援プログラム「起動」に理学研究科の津田明彦准教授によるスタートアップが採択

公益財団法人大阪産業局が実施する事業支援プログラム「起動」(第2期)に、神戸大学大学院理学研究科の津田明彦准教授によるスタートアップ(2024年4月起業予定)が採択されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/2024_03_08_01-1/)

- (4) 第129回日本解剖学会総会・全国学術集会において献体学術賞を受賞

3月21日～23日に開催された第129回日本解剖学会総会・全国学術集会において、神戸大学大学院保健学研究科・生体構造学研究室(荒川 高光 准教授)の博士課程前期課程2年生斎藤佑典氏が、献体学術賞を受賞しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20240329-65175/>)

【5】フィーチャー

(1) デジタル技術で世界の物流と地球環境を変えていく

海運を変える DX、陸運を救う PI

世界を行き来する貿易貨物の 9 割は船による海上輸送で、四方を海に囲まれた日本ではほぼ 100%を占める。その海運大手のグローバル企業「A.P.モラー・マースク」(本拠はデンマーク) に長く勤め、数々のプロジェクトに携わってこられたのが、神戸大学大学院海事科学研究科の平田燕奈准教授です。現在の研究テーマは実務家としての豊富な経験がベースにあり、めざすは物流業界の DX、つまりデジタル技術による改革と進化とのことです。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240319-21797/>)

(2) 阪神・淡路大震災 30 年 研究の蓄積を未来にどう生かすか

2025 年 1 月 17 日で阪神・淡路大震災から 30 年となる。神戸大学は昨年 11 月、「阪神・淡路大震災 30 年事業委員会」(委員長＝藤澤正人学長) を設置し、1 年あまりにわたって研究成果の発信、震災資料の活用・継承などに取り組む。この約 30 年、国内外を問わず大災害が相次ぎ、今年 1 月には能登半島地震も発生した。阪神・淡路以降に蓄積されてきた知見を、未来にどう生かして

いくのか。災害にかかわる研究を続けてきた一人で、神戸大学都市安全研究センターの近藤民代教授（居住環境計画、減災復興学）に、震災からの30年と今後の研究、被災地・神戸から発信すべき教訓などを聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

（ <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240327-65164/> ）

【6】 イベント等情報

（1） イベント情報

○詳細は、こちらをご覧ください。

（ <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/events/> ）

★「KU-Net」からのお知らせ

「神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)」をリニューアルし公開しております。

従来からの、「OB・OG 訪問」の機能に加え、「卒業生からのメッセージ」や「在学生の今」の掲載をしております。また、卒業生等が開催するイベントへの参加申し込み機能も追加しました。

詳しくは、神戸大学コミュニティネットワークホームページ
(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/alumni-net/>)でお知らせしています。

また、KU-Net の説明動画を YouTube にアップしておりますので併せてご覧ください。
(<https://youtu.be/ZqHCVW0VsuU>)

是非ご登録ください。

★神戸大学校友会ホームページ

<https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/>

■支部所属の会員の皆様にもお知らせください

神戸大学校友会事務局

657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学企画部卒業生・基金課内

TEL 078-803-5042 FAX 078-803-5024

E-mail: plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp